



# バイモ

*Fritillaria thunbergii* Miq. ユリ科 (Liliaceae)



(局方)*Fritillaria verticillata* Willd. var. *thunbergii* Baker

生薬名:バイモ(貝母) 薬用部位:りん茎

中国に分布する多年草で、草丈は60～80cmになります。「りん茎」とよばれる球根は夏季の休眠後、10月頃から地中で発芽、発根を開始し、早春に急速に茎葉を伸長して4月頃に開花します。生薬「バイモ」は、りん茎で、ペイミン(アルカロイド)などの成分を含み、鎮咳<sup>※1</sup>、去痰<sup>※1</sup>などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、滋陰至宝湯(じいんしほうとう)、清肺湯(せいはいとう)など4処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



# ハシリドコロ

*Scopolia japonica* Maxim. ナス科 (Solanaceae)



生薬名:ロートコン 薬用部位:根茎・根

日本の本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の湿り気のある林中に見られます。草丈は30～60cmで、早春に芽生え、4～5月に釣鐘状の花を咲かせ、7月頃には地上部が休眠します。生薬「ロートコン」は本種の根茎及び根で、アトロピン(アルカロイド)などの成分を含み、鎮痛<sup>※1</sup>、鎮痙<sup>※1</sup>などの作用があります。一般用漢方製剤には配合されていません。主にロートエキス为原料として、鎮痛、鎮痙薬などに利用されています。全草にアトロピンなどを含み、大脳皮質の中樞を興奮させ、めまいや幻覚を引き起こします。これら症状により苦しんで走り回ることから、本種の和名が付いたといわれています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



# ハス

*Nelumbo nucifera* Gaertn. ハス科 (Nelumbonaceae)



生薬名: レンニク(蓮肉) 薬用部位: 通例、内果皮の付いた種子

アジア、ヨーロッパ、オーストラリアに分布する多年草です。高さ100cm以上になり、7月頃に開花します。古い時代にインドから中国を経てわが国に渡来したとされていますが、中生代白亜紀の化石に含まれていたことから、自生株も存在していたと考えられます。現在は、蓮根を採るために日本各地の水田で栽培されています。生薬「レンニク」は本種の通例、内果皮の付いた種子でときに胚を除いたもので、ロツシン(アルカロイド)などの成分を含み、鎮静<sup>※1</sup>、滋養強壮<sup>※1</sup>などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、啓脾湯(けいひとう)、参苓白朮散(じんりょうびやくじゅつさん)など3処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



# パチョリ

*Pogostemon cablin* (Blanco) Benth. シソ科(Lamiaceae)



(局方)*Pogostemon cablin* Benth. シソ科(Labiatae)

生薬名:カッコウ(藿香、広藿香) 薬用部位:地上部

東南アジアやインドに分布する多年生草本で、比較的湿った日陰を好みます。草丈は30～80cmを示し、本種の地上部を乾燥したのが生薬「カッコウ(藿香)」と称します。地上部には精油成分であるパチョリアルコールなどを含み、解熱<sup>※1</sup>、鎮吐<sup>※1</sup>、健胃<sup>※1</sup>作用を期待して用いられ、一般用漢方製剤294処方のうち藿香正気散(かっこうしょうきさん)、香砂君子湯(こうしゃりっくんしとう)など9種の処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



# ハッカ

*Mentha canadensis* L. シソ科 (Lamiaceae)



(局方)*Mentha arvensis* Linné. var. *piperascens* Malinvaud シソ科 (Labiatae)

生薬名:ハッカ(薄荷) 薬用部位:地上部

アジア東部に分布する多年草です。草丈40～60cmになり、7～8月に開花します。四方に地下茎を伸ばして旺盛に生育します。生薬「ハッカ」は本種の地上部で、メントール(精油)などの成分を含み、防腐<sup>※1</sup>などの作用があります。新しいほど良いとされている生薬の一つです。一般用漢方製剤294処方のうち、加味逍遥散(かみしょうようさん)、升麻葛根湯(しょうまかつこんとう)など14処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



## ハトムギ

*Coix lacryma-jobi* L. var. *ma-yuen* (Roman.) Stapf イネ科 (Poaceae)



(局方)*Coix lacryma-jobi* L. var. *ma-yuen* Stapf イネ科 (Gramineae)

生薬名: ヨクイニン(薏苡仁) 薬用部位: 種子

中国、インドシナ地方に分布する一年草で、草丈1~1.5mになります。日本には享保年間に渡来し、全国各地で栽培されています。生薬「ヨクイニン」は本種の種皮を除いた種子で、コイキセノリド(脂肪油、脂肪酸)などの成分を含み、滋養<sup>※1</sup>、強壮<sup>※1</sup>、いぼとり<sup>※1</sup>、抗肌荒れ<sup>※1</sup>などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、薏苡仁湯(よくいにんとう)など5処方に配合されています。また、大和本草(貝原益軒、1708年:江戸中期)には、いぼとり、母乳を増すなどの薬効が紹介されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名集 ~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



## ハナスゲ

*Anemarrhena asphodeloides* Bunge キジカクシ科(Asparagaceae)



(局方)ユリ科 (Liliaceae)

生薬名:チモ(知母) 薬用部位:根茎

中国に分布する多年草です。草丈50～80cmになり、6～7月に花を咲かせます。日本には江戸時代の享保年間に渡来しましたが、生産栽培されることはなく定着しませんでした。生薬「チモ」は本種の根茎で、チモサポニン A-III(サポニン)、マンギフェリン(キサントン配糖体)などの成分を含み、解熱<sup>※1</sup>、血糖降下<sup>※1</sup>、抗消化性潰瘍<sup>※1</sup>などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、桂枝芍薬知母湯(けいししゃくやくちもとう)、酸棗仁湯(さんそうにんとう)など13処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



# バナナ

*Musa × paradisiaca* L. バショウ科 (Musaceae)



マレー半島一帯に分布する巨大な多年草です。元来、アズキ粒ほどの硬い種子が充満した果肉の少ない果実でしたが、何千年もの長い間に種子のない突然変異種が見出され、多種多様なバナナが育成されました。本種は名前のように草丈“三尺(約1m)”ほどの矮性種で、果実を収穫することができます。国内へ輸入されたのは1903年(明治36年)で、台湾産のバナナでした。バナナには、熟しても淡白な味で料理に適した料理用と、甘くてそのまま食する生食用に分かれます。





## ハナハッカ

*Origanum vulgare* L. シソ科(Lamiaceae)



地中海沿岸地方を原産とする、極めて繁殖力の強い多年草で高さ60～90cmになります。和名は初夏に、薄い紅紫色の花を半球形に密集して咲かせることにちなんでいます。生の葉のままでは青臭いのですが、乾燥すると芳香と快い苦味が料理を引き立ててくれるため、イタリア、メキシコ、スペインなどの料理では肉や魚の臭い消しに欠かせない素材です。強い香りを持つ本種は芳香ハーブとしても使われ、気分が落ち込んでいる時に元気と勇気を取り戻す香りともいわれます。解熱<sup>※1</sup>、利尿<sup>※1</sup>作用が期待されます。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(下). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 521p.



# バニラ

*Vanilla planifolia* Andrews ラン科 (Orchidaceae)



メキシコ東南部から中南米熱帯地域に分布する“つる性植物”です。葉に対生して気根を出し、他の植物に絡みつく着生ランです。世界の総生産量60%がマダガスカルで、年間1100トン～1400トンが輸出されています。バニラビーンズは未熟果実を収穫して「キュアリング」と呼ばれる発酵熟成工程を経てグルコバニリンが分解されて、香気成分であるバニリンに変化して独特の香りを出し、バニラエッセンスやバニラオイルなどの矯味矯臭剤としてお菓子、煙草、香水などに用いられます。





# パパイア

*Carica papaya* L. パパイア科 (Caricaceae)



熱帯アメリカの高温乾燥地に分布する常緑高木で、成長が非常に早く高さ10mに達します。未熟果実にはたんぱく質分解酵素のパパインがそれぞれ含まれ、国内では腸溶剤の基剤として用いたり、食肉を軟化するために用いられたりします。日本には明治時代にもたらされ、沖縄県、鹿児島、小笠原諸島などで栽培が始まりました。市場に多く出回るようになったのは輸入が許可された1968年以降になります。





## ハマスゲ

*Cyperus rotundus* L. カヤツリグサ科 (Cyperaceae)



生薬名:コウブシ(香附子) 薬用部位:根茎

熱帯～亜熱帯にかけて分布する多年草です。草丈は20～40cmになり、8～9月に開花します。地中に根茎を伸ばして繁殖し、その一部が球茎状に肥大するのが特徴です。生薬「コウブシ」は本種の根茎で、シペロール(精油)などの成分を含み、利胆<sup>※1</sup>、鎮痛<sup>※1</sup>などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、香蘇散(こうそさん)、香砂六君子湯(こうしゃりっくんしとう)など19処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



## ハマナス

*Rosa rugosa* Thunb. バラ科(Rosaceae)

東アジアの温帯、亜寒帯に広く分布し、日本では本州の茨城県以北の太平洋側および鳥取県以北の日本海側の海岸の砂地で見られます。樹高1~1.5mの落葉低木で、6~8月の間に紫紅色の花が繰り返し開花します。花弁には精油成分のゲラニオールなどを含み、通経<sup>※1</sup>、消炎<sup>※1</sup>作用があるといわれており、果実はビタミンCを非常に多く含み、ローズヒップとして食用にもなります。また、タンニンを含む根は、染料として鳶色(暗い黄みの赤)に染める「秋田八丈」に利用されます。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(下). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 521p.

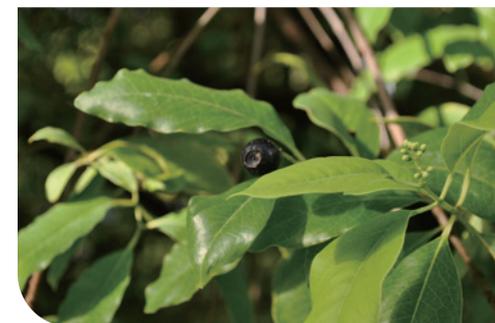


## ビャクダン

*Santalum album* L. ビャクダン科 (Santalaceae)



東インドに分布する半寄生性の常緑小高木で高さ3～10mに達します。幼樹は他種の根に寄生して水分や栄養分を収奪します。材や根から水蒸気蒸留で抽出したものが白檀油 (Santal oil) と称し、主成分であるサンタロール、サンタレンを含み、健胃<sup>※1</sup>、鎮痛<sup>※1</sup>作用があります。現在では香料や薫香料として使用されるのみで、インド南部のマイソールからマドラス地方にかけての乾燥した地域で採取されるのが最も高品質なものとして扱われ「老山白檀」と称されます。英名では「サンダルウッド」、インド名では「チャンダン、チャンダナ」と呼ばれ、日本では奈良時代に仏教の発展とともにお香や線香などに利用されるようになりました。また、ことわざ「梅檀(せんだん)は双葉より芳し」とありますが、ここで言う「梅檀」とは本種の「白檀」のことをさします。



※1 難波恒雄. 原色和漢薬図鑑(下). 大阪, 株式会社保育社. 1980, 521p.

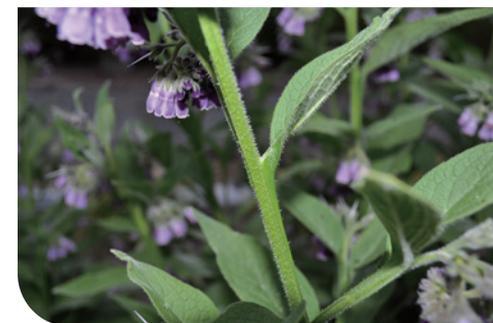


## ヒレハリソウ

*Symphytum officinale* L. ムラサキ科(Boraginaceae)



ヨーロッパ、小アジア、西シベリアに分布する多年草で、草丈は高さ50～100cmになります。葉柄の基部から茎にかけてヒレ状の翼(よく)が形成され、この特徴が和名の由来になっています。花は5～7月に淡い紅紫色をした鐘形の五弁花が下向きに咲きます。全草に収斂<sup>※1</sup>、抗炎症<sup>※1</sup>作用があり、古くから外用的に傷や骨の治癒に用いられてきました。しかしながら、近年、本種の摂取により肝障害などの健康被害を生じる恐れがあるため、摂取を控える旨の通知が厚生労働省より出されています。



※1 アンドリュー・シェヴァリエ. 世界薬用植物百科事典 日本の薬用植物のすべて. 難波恒雄監訳. 東京, 株式会社誠文堂新光社. 2000, 334p.



# ビワ

*Eriobotrya japonica* (Thunb.) Lindl. バラ科(Rosaceae)



生薬名: ビワヨウ(枇杷葉)

薬用部位: 葉

中国中南部に分布し、日本では果樹として広く栽培される常緑樹です。冬に花を咲かせ、夏に果実が黄色に熟して食用とされます。また、民間薬としては、あせもなどができたときに、「枇杷湯」として葉を利用します。枇杷の名前に関しては諸説ありますが、葉や果実の姿が楽器の琵琶(びわ)に似ていることから名付けられたとされています。生薬「ビワヨウ」は、葉を乾燥したもので、ネオリドール(セスキテルペン)を含み、消炎<sup>※1</sup>、鎮吐<sup>※1</sup>などの作用を有します。一般用漢方製剤294処方のうち、辛夷清肺湯(しんいせいはいとう)、甘露飲(かんろいん)の2処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



## ビンロウ

*Areca catechu* L. ヤシ科 (Arecaceae)



生薬名: ビンロウジ(檳榔子) 薬用部位: 種子

東南アジアに分布する単幹性の常緑高木で樹高10~20mに達します。ココヤシと違い幹は真っ直ぐに伸びるのが特徴です。本種の種子を生薬「ビンロウジ(檳榔子)」と称し、アルカロイドの一種アレコリン、アレカイジンなどを含みます。駆虫<sup>※1</sup>、血圧降下<sup>※1</sup>、縮瞳<sup>※1</sup>作用を有し、一般漢方製剤294処方のうち女神散(によしんさん)、九味檳榔湯(くみびんろうとう)など6種に配合されています。その他、熱帯アジア圏では、嗜好品として「噛みたばこ」のように、本種の種子をコショウ科のキンマ(*Piper betle* L.)の葉の上に乗せ石灰にまぶして噛む習慣がありますが、唾液が赤くなり、長期の使用は歯が黒くなり、発がん性のあることが示唆されて次第に使われなくなっています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



## フクジュソウ

*Adonis ramosa* Franch. キンポウゲ科(Ranunculaceae)



正月の飾り花に欠かせないことから、「元旦草」などの別名をもつ早春に咲く多年草で、落葉樹木が繁茂する前に萌芽し、短期間に開花・結実して、夏には休眠する典型的な「春植物」です。薬用部位は全草で、強心<sup>※1</sup>作用を示します。属名の Adonis は、ギリシア神話によるもので、女神 Aphrodite に深く愛された美少年 Adonis が、軍神 Ares の嫉妬により殺され、その血が滴ったところに真紅の花を咲かせるナツザキフクジュソウ (*A. aestivalis* L.) が生じたと言われています。



※1 岡田稔, 布目慎男, 寺林進, 三木栄二編集. 原色牧野和漢薬草大図鑑. 三橋博監修. 東京, 株式会社北隆館. 1988, 782p.



## フタバアオイ

*Asarum caulescens* Maxim. ウマノスズクサ科 (Aristolochiaceae)



東北南部から四国、九州に分布し、山地のやや湿った樹林下に生える多年草です。茎は地際に横たわり、春先に茎の先端部が伸長して2枚の葉を展開し、冬には落葉します。4～5月頃に、淡紅色の花を下向きに咲かせます。フタバアオイは、京都の賀茂神社の祭礼(葵祭)に用いられ、賀茂神社の神紋でもあります。また徳川家の三葉葵もフタバアオイが図案化されたものです。

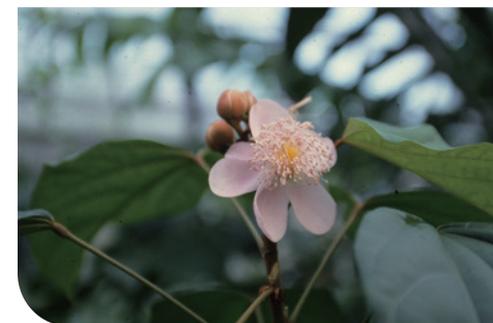




## ベニノキ

*Bixa orellana* L. ベニノキ科(Bixaceae)

熱帯アメリカに分布する半落葉性小高木で、現在ではインドで多く栽培されています。本種は茎葉にタンニンが含まれることから中国では「紅木(コウボク)」と称して、解熱<sup>※1</sup>や解毒<sup>※1</sup>、収斂<sup>※1</sup>作用があります。種子ならびに種皮には橙赤色の染料色素ビクシン(Bixin)が含まれ、インディオは身体を彩色するときに使いました。また、木綿や絹の染料として重宝されましたが、退色しやすいことから1884年赤色合成染料(コンゴレッド)が出現して以来使われなくなりました。しかし、無毒なところから食品着色染料アナトー (Annatto)の名で、主に乳製品、ハム、ソーセージ、明太子、かにかまぼこなどの着色に使われています。また、フィリピンなどでは根を高価なサフランの代用品として、そのまま香辛料・着色料として用いています。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集。中国本草図録 巻1。大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修。東京，中央公論社。1992，278p.



# ベニバナ

*Carthamus tinctorius* L. キク科 (Asteraceae)



(局方)キク科(Compositae)

生薬名:コウカ(紅花) 薬用部位:管状花

エジプトに分布する一年草です。草丈1m前後になり、6月下旬～7月上旬に開花します。日本への渡来は古く、延喜式(927年)にその名が登場します。江戸時代になると山形県の最上地方での栽培が盛んになり、品質の高い紅花として非常に珍重されました。このため、本種は山形県の県花に指定されています。生薬「コウカ」は本種の管状花をそのまま又は黄色色素の大部分を除いたもので、ときに圧搾して板状としたもので、カーサミンなどの成分を含み、通経<sup>※1</sup>、駆瘀血<sup>※1</sup>などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、葛根紅花湯(かっこんこうかとう)、通導散(つうどうさん)など11処方に配合されています。生薬のほか、天然色素原料として食品や化粧品にも用いられています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名集 ~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



# ボウフウ

*Saposhnikovia divaricata* (Turcz.) Schischk. セリ科 (Apiaceae)



(局方)*Saposhnikovia divaricata* Schischkin セリ科 (Umbelliferae)

生薬名:ボウフウ(防風) 薬用部位:根・根茎

中国北部からシベリアに分布する多年草です。草丈40～60cmになり、7～8月に花を咲かせます。日本には江戸時代の享保年間に渡来しました。生薬「ボウフウ」は本種の根及び根茎で、フラキシジン(クマリン)などの成分を含み、鎮痛<sup>※1</sup>、解熱<sup>※1</sup>などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、独活湯(どっかつとう)、防風通聖散(ぼうふうつうしょうさん)など25処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



# ホオノキ

*Magnolia. obovata* Thunb. モクレン科(Magnoliaceae)

生薬名:コウボク(厚朴)

薬用部位:樹皮

日本特産の落葉高木で、北海道から九州に至る山地の湿気が多い沢沿いに自生し、高さ20mに達します。本種は日本の野生樹木の中では最大級の花をつけます。大きな葉は食物を包むのに使われ、岐阜県飛騨高山の「朴葉味噌」は有名です。また、材は下駄の歯や版木に用いられます。生薬「コウボク」は、神農本草経の中品に収載され、成分としてマグノロール(フェノール類)などを含み、鎮痛<sup>※1</sup>、鎮痙<sup>※1</sup>作用を有します。一般用漢方製剤294処方のうち半夏厚朴湯(はんげこうぼくとう)、小承気湯(しょうじょうきとう)などの29処方に配合されています。



※1原島広至. 改訂第3版 生薬単(ショウヤクタン)～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



## ホソバオケラ

*Atractylodes lancea* (Thunb.) DC. キク科 (Asteraceae)



(局方)*Atractylodes lancea* DC. キク科 (Compositae)

生薬名: ソウジュツ(蒼朮) 薬用部位: 根茎

中国に分布する多年草で、山裾の明るい低木林、草地などに自生します。草丈40～60cmになり、9～10月に開花します。葉は硬く、縁には刺状の刻みがあり、同属のオケラと比べて細長いことからホソバオケラの名前が付いたと考えられます。生薬「ソウジュツ」は本種の根茎で、アトラクチロジンなどの成分を含み、健胃<sup>※1</sup>、整腸<sup>※1</sup>、利尿<sup>※1</sup>などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、平胃散(へいいさん)、薏苡仁湯(よくいにんとう)など73処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ～語源から覚える植物学・生薬学名単語集～. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



# ボタン

*Paeonia suffruticosa* Andrews ボタン科 (Paeoniaceae)



生薬名:ボタンピ(牡丹皮) 薬用部位:根皮

中国西北部に分布する落葉低木です。日本へは平安時代に中国から渡来し、薬用として栽培されるようになりました。草丈50～100cmになり、4～5月に花を咲かせます。生薬「ボタンピ」は本種の根皮で、ペオノールなどの成分を含み、駆瘀血<sup>※1</sup>、抗菌<sup>※1</sup>などの作用があります。一般用漢方製剤294処方のうち、加味逍遙散(かみしょうようさん)、桂枝茯苓丸(けいしぶくりょうがん)など20処方に配合されています。



※1 原島広至. 改訂第3版 生薬単 (ショウヤクタン) ~ 語源から覚える植物学・生薬学名単語集~. 伊藤美千穂, 北山隆監修. 東京, 丸善雄松堂株式会社. 2017, 361p.



## ホップ<sup>o</sup>

*Humulus lupulus* L. var. *lupulus* アサ科(Cannabaceae)



西アジアやヨーロッパに分布する雌雄異株の落葉つる性多年草で、別名に「セイヨウカラハナソウ」という名があります。雌花は夏季に多数密生して開花し、その後、苞が成長して初秋に長さ5cmほどの松かさ状の球果(毬花)を形成します。雄花があると結実して芳香が失われるため、栽培地では雌株だけが植えられています。この球果と苞の裏側にあるホップ腺は、苦味配糖体であるフムロンやルプロンを含み、鎮静<sup>※1</sup>、健胃<sup>※1</sup>、利尿<sup>※1</sup>作用があります。また本種は、ビールに特有の苦みと香りを与えることで有名ですが、加えて防腐効果もあるため、本種の使用によりビールを長く保存することが可能になりました。



※1 蕭培根主編，真柳誠翻訳編集．中国本草図録 卷1．大塚恭男，庄司順三，滝戸道夫，丁宗鐵監修．東京，中央公論社．1992，278p.